



2021年8月13日

各 位

会社名 トヨクモ株式会社
代表者名 代表取締役社長 山本 裕次
(コード番号：4058 東証マザーズ)
問合せ先 取締役経営管理本部長 石井 和彦
ir@toyokumo.co.jp

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2021年2月12日に公表した2021年12月期通期の業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 当期の業績予想数値の修正 (2021年1月1日～2021年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,430	百万円 310	百万円 310	百万円 210	円 銭 20.68
今回修正予想 (B)	1,550	390	390	250	24.62
増減額 (B - A)	120	80	80	40	—
増減率 (%)	8.4	25.8	25.8	19.0	—
(参考) 前期実績 (2020年12月期)	1,095	246	234	150	15.66

(注) 2021年1月1日から2021年6月30日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が24,000株増加しております。前回発表予想及び今回修正予想の「1株当たり当期純利益」については、当該増加株式数を反映して算定しております。

2021年1月1日を効力発生日として株式1株について2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり当期純利益」を算定しております。

2. 修正の理由

感染力の強い変異株の新型コロナウイルスの感染が拡大する中、リモートワークの定着および、作業効率を高めるアプリケーションの開発を現場の担当者自らが行う機会が増え、ローコード・ノーコードのサービスの活用が増えてまいりました。また昨年から引き続き地方自治体などにおいてもデジタルトランスフォーメーションによる需要が高まったことなどから、kintone 連携サービスの売上高が予想を上回って推移しております。また、安否確認サービスにおいても地震や大雨などの自然災害が発生した際の安否確認ツールとしてだけでなく、パンデミックをはじめとした非常時における BCP（事業継続計画）対策として有効なツールとしての認知が拡大し、堅調に推移したことから、全体の売上高は 1,550 百万円となる見通しです。

費用面は、売上の伸長を一層加速させるために広告宣伝費の追加投資を決定し、当初計画の 310 百万円から 370 百万円へ増額する予定です。媒体はテレビ CM をはじめとするマス広告やインターネット広告を主体として、安否確認サービスおよび新サービスのプロモーション等に積極的に投下する予定です。

その結果、営業利益は 390 百万円、経常利益は 390 百万円、当期純利益は 250 百万円となる見通しです。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因により、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

以 上